

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム燦燦とざわ)

事業所番号	0672500600		
法人名	株式会社 MSC		
事業所名	グループホーム燦燦とざわ		
所在地	山形県最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野2096-1		
自己評価作成日	令和1年12月28日	開設年月日	平成 17年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人を理解し、その方の持てる機能が維持できるよう支援しています。
「自分らしい暮らし」が出来るよう、個別ケアにも力を入れ、個々に合った支援を心掛けています。
安心した生活が送れるように利用者・家族・職員の信頼関係も大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人一人の意向を確認した個別ケアが行われ、外出も全体での外出ではなくそれぞれの希望に従っての外出支援が行われており、その人らしく生活が送れるような取り組みが行われている。事業所内でも利用者は家族的な雰囲気の中、事業所での生活を楽しんでいる様子が見て取れる。居間には床暖房が施され、窓には障子を通した明り取りの中で、職員と利用者がこやかに会話を楽しくしており、暖かみのある雰囲気の感じられる事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社福祉工房		
所在地	仙台市青葉区国見1-16-27-2F		
訪問調査日	令和2年1月28日	評価結果決定日	令和2年2月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員体制の変更に伴い、職員全員の意見を取り入れた理念を作成し、共有しています。	法人の理念をもとに事業所の理念を職員間で話し合い作成。作成したてであるため、今後職員に浸透させるためにも、支援の振り返り時等に理念を確認しながら進めていくことが期待される。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事に参加して頂き交流できるように、地域の方や他施設への案内・声掛けを行っています。又、地域の行事への参加や、ボランティアの受け入れをし交流しています。	認知症カフェへの参加(来年度)、村の食事改善プロジェクトのメンバーやボランティアの方々の来所、事業所の夏祭りへの参加広報を行うなど、地区との連携努力が行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等に地域の方を招き、実際に交流することにより、グループホームや認知症について理解していただけるよう努めています。認知症カフェへの参加も今後予定しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況や活動状況報告を行い、外部の方からの考えられる意見やアドバイスをもらいサービスの向上に繋がるよう努めています。	包括支援、地区会長、民生委員、家族などの参加でおおむね2か月に1回開催されている。年間の計画が期初に立案され、避難訓練などと合わせ行われ、参加者よりの意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の会議へ定期的に参加し、村や他施設との情報交換を行っています。	地域包括支援センター主催の会議(地区の介護事業所、医療関係、行政)への定期的な参加により、情報交換と同時に、行政との連携が取れる関係作りが行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての理解を深める為、外部研修に参加しています。研修で学んだ知識を全体で共有できるよう毎月のミーティングで伝達研修を行っています。	身体拘束に関する外部研修や伝達研修、勉強会が行われ、更に、毎月の職員個々の振り返りが行われ、身体拘束をおこなっていないことへの確認が行われている。	職員の振り返りをもとに、職員間で事業所における課題や具体的改善に向けた話し合いを行っていくことや身体面だけではなく、言語による拘束に関しても加えて検討していくことが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングの際、虐待防止についての内部研修を実施しています。高齢者虐待防止研修会へも参加しており、職員への伝達研修も行っています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学ぶ機会ができていなかった為、今後研修への参加や勉強会の場を設け、支援につなげるようにしていきます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等の説明をしっかりと行い、変更等があった際は都度、説明・報告を行っています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の会話を大事にし、利用者の望んでいる事を考察し支援につなげています。家族への電話や面会の際は、状態の報告を密に行い家族の意見も聞き、取り入れています。	運営推進会議での家族の意見、訪問時の聞き取り、日常の利用者との会話などから意見をもらい、支援への対応が行われている。更に、アンケートの実施なども検討していくことを期待。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや毎月の全体ミーティングの場で、各自の意見やケアの方針を話し合い情報の共有に努めています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に訪問され、管理者を通し現場の状況把握に努めています。ミーティングへの参加や職員との面談も行い1人1人の要望を聞く機会を設けています。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップの為、外部研修への参加の機会をつくっています。研修での学んだ知識を内部での伝達研修により、全体のスキルアップにもつなげています。	年間での内部研修計画を立て、包括支援センターなどからの外部講師を招き、定期的な研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	包括の会議や研修会、最上地区GH連絡協議会等に参加し、勉強や情報交換の場をもっています。	最上地区のGH協議会での情報交換や、近隣の介護事業所との交流を行い、地区における福祉状況などの情報を得て、支援に活かしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を通して本人の趣味、嗜好や生活暦等の把握に努め、施設での生活に移る際、不安なく移行できるよう心掛けています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時に本人同様、家族の思いもお聞きしお互いの希望に添えるよう支援に努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談では本人の状態把握に努め、必要とされている支援や要望を判断し、他サービスとも連携し対応しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を大切にし、利用者が自分らしい暮らしができるよう支援しています。利用者を敬う気持ちも忘れずに対応していきます。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での利用者の状態等の報告を行い、信頼関係を深めれるよう対応しています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や、お祭りなど思い出の場へ行く機会をつくり、楽しんでいただけるよう企画しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場として、皆様に楽しめるようなレクや行事の企画等を考えています。利用者同士の関係を考慮し、馴染みの関係性をつくれるよう努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を取り、その後の状態や経過を伺うようにしています。			

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中から本人の思いを汲み取れるように心掛けています。定期的なアセスメントやモニタリングを行い、より良い支援が出来るよう見直し・変更を行っています。	センター方式を使用し、利用者との日常の会話、来所時の家族との会話などから利用者の意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に得た情報を職員間で共有し、自分らしい生活が出来るよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態の把握に努め、記録に残したり、申し送りを通し状況にあった支援が行えるように心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望に沿った介護計画を作成し、定期的なモニタリングを実施し、見直しや変更し対応しています。	利用者や家族の意向をもとに職員間での話し合いにより、介護計画を作成、毎月の確認や半年ごとの見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録へ様子を記入し、職員間で状況の把握・共有が出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方々に協力して頂きボランティアに来て頂いたり、行事に参加してもらい交流を図っています。地元の行事へも参加し、地域とのつながりも大切にしています。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医に毎月1回往診に来て頂いています。診察時には利用者の状態を伝え、指示を受けたり健康管理に努めています。体調不良時には状態を伝え指示を受けています。(臨時薬処方等)</p>	<p>戸沢村診療所が協力医となっており、月1回の往診が行われている。かかりつけ医への受診は原則家族対応となっており、状況報告書を作成し提出している。又、訪問看護師との契約により、週3日看護師が在籍。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週に1回看護師に来て頂いています。利用者の様子を伝え状態確認していただいたり、指示を受けています。急変時等は電話連絡にて相談しています。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には病院関係者へ利用者情報を詳しく伝えていきます。介護サマリーも作成し情報提供しています。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合については、家族へ利用者の状態をしっかりと伝え、ホームの方針を説明しています。看取りは行っていません。</p>	<p>重度化した時の指針は重要事項説明書に記載し、入所時に説明、同意を頂いている。実際の重度化した時には医師、家族、職員が話し合いを行い対応を検討している。現在、事業所での看取りは行われていない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息時の対応や心肺蘇生法等の外部研修で得た知識をミーティング時に伝達研修として行い、全員が対応できるよう学ぶ機会を設けています。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練を実施しており消防士等より指導・助言を頂いています。地区の消防団にも訓練に参加して頂き、利用者の様子や施設のつくり等も確認して頂いています。	昨年は3月、6月、10月の3回の避難訓練が行われ、それぞれ日中、夜間想定 の訓練が行われた。6月には地元の消防団、10月には消防署の立ち合いでの訓練が行われ、自治会長などの参加も得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人1人が常に気をつけて、利用者に合わせて言葉掛けや対応に努めています。	職員研修を通じてプライバシーの確保に関する理解を深め、日常の声掛け等職員間で注意しながら対応している。振り返りシートでの対応を検討していくことも期待。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によっては思いや希望を表現しなくなっている方もいます。出来る方については、個別ケア等で本人の希望、自己決定を実践しています。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人の生活スタイルペースを大切に、希望通りの生活が送れるように支援しています。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で好みの服を決める事が難しくなった利用者には、似合いそうな服を選び支援しています。出来る方には選んでもらっている。髪型も本人の希望をお聞きし散髪している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者からも食材の下ごしらえや切る作業を一緒に行っていただいています。テーブル拭きや食器拭きもして下さっています。季節の物お好きな物を提供しています。	特に献立は事前に決めずに、その日にある食材を見ながら利用者と話し合いながら決めている。下ごしらえや片付けには利用者も参加。栄養士などによるカロリーや栄養バランスの確認をしていくことも期待。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせた食事内容や形態で提供しています。毎食の水分量を記録し、その人に合わせた支援を行っています。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に1人1人に合った声掛けや介助を行い口腔ケアを行っています。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行ったり、自力排泄できるように時間をゆとり取ったり工夫しています。	原則として自力での排泄を行ってもらい、管理表を作成し、利用者のパターンに従って、トイレ誘導が行われ、現在はおむつ利用者はいない。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトの提供する等の工夫や水分補給に努めています。レクリエーションで運動する機会を多く作っています。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定日は決めておりますが、1人1人の体調に合わせて変更したりし支援しています。	原則週2～3回の入浴支援が行われ、時には入浴剤などを利用し楽しみながらの入浴が行われている。拒否する利用者にはその日の気分や状況に応じて対応している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活習慣に合わせた休息の支援を行っている。お昼寝は自室やソファでされています。夜間は安心されるような声掛けや見守りを実施しゆっくり休んでいただけるよう支援している。眠りスキャンで睡眠状態の把握も行っている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員の薬の説明書をファイルに綴じていつでも見れるようにして理解に努めている。服薬時は誤薬の無いよう、職員同士で名前・日付等確認してから服薬して頂いたり、各利用者の嚥下状態に合わせて服薬方法を変えて対応しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの役割を大切に、出来る方には得意な事が生かせるよう、洗濯物たたみや食器拭きの手伝いをして頂いています。楽しめるような行事やドライブなど企画するように努めています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそっては難しくなっている面もあるが、天気の良い日は日光浴やドライブで気分転換して頂いています。普段は行けないような場所へは個別ケア等で支援しています。	村の行事への参加や、気候の良い時には表にイスを並べての日光浴、又、利用者一人一人の希望を聞き、対応できる時には希望に沿った外出先への支援が行われている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員で対応しており、本人が使う支援はできておりません。今後、可能な方には個別ケア時などの機会支援していきたいです。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が家族へ電話連絡し、本人とお話する機会を設けています。家族や知人と手紙のやり取りができるよう支援もしています。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂けるように清掃や整理整頓を行っています。レクリエーションで作成した作品を飾ったり季節感を感じてもらえるような工夫をしています。	吹き抜けの居間、障子を通しての光、広い窓からは外の景色を眺め落ち着いた環境が作られている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いてそれぞれのペースで自由に過ごせるように配慮しています。テレビをのんびり見たり、畳敷で体操されたり、ひとりひとり思いのまま過ごされています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族のご協力により馴染みの物など持って来て頂いており、居心地良く安心した生活ができるよう工夫しています。	利用者の馴染みの品物が持ち込まれ、利用者によってはTVを部屋においたり、利用者の希望の品も持ち込まれ、落ち着いた生活が送れるように取り組まれている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置と全バリアフリーを活用して、ひとりひとりの「できること」が増やせるような自立支援を行っています。各トイレや浴室等の場所を大きく表示して工夫しています。		